

国土交通政策研究所 シンポジウム  
— 地方航空路線を活用した地域活性化～LCC、RJ を通じて考える—

1. 日 時 平成 26 年 6 月 20 日(金)15 時 00 分～17 時 30 分 (14 時 30 分受付開始)
2. 場 所 日本大学 経済学部 7 号館 2 階講堂
3. 主 催 国土交通政策研究所
- 後 援 航空政策研究会、 東京大学航空イノベーション総括寄附講座
4. 目 的

一昨年から日本国内航空市場に参入を開始した LCC (Low Cost Carrier) は、低価格航空運賃の提供により新規需要を産みだし国内航空市場を賑わせている。今後、LCC 各社の更なる路線拡大に伴い、停滞する航空需要の改善、利便性の向上、地方路線への参入、路線拡大等がますます期待されているところである。その一方で、LCC が就航している地方空港は現時点では限られており、その恩恵をうけていない空港も多い。

また、欧米では RJ (Regional Jet) の活用により需要の小さい地方都市間のネットワークが充実している一方で、日本では RJ を活用した路線が十分であるとは言えず、今後の充実が期待される。

そのような中、政府は 2020 年までに訪日外国人旅行者数を 2000 万人にすることを目標に掲げており、東京オリンピック招致成功もありインバウンド数の増加に期待が持てる一方、海外からの観光客を地方に取り込むためには地方路線の拡充が必要不可欠であると考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、地方航空路線を活用した交流人口の拡大により地方を活性化させるというテーマについて、LCC による新規需要の創出や RJ による地方路線拡充といった視点等から、今後どのような取り組みが重要となるのか、エアライン、地方自治体、観光事業者、学識経験者など立場の異なる主体で議論することを目的とする。

## 5. プログラム

### ◆発表◆

LCC 参入効果の分析と地方空港の事例調査	国土交通政策研究所 研究官	渡辺伸之介
ここが違う 関空の LCC ターミナル	新関西国際空港株式会社 経営戦略室 次長兼調査役(LCC プロジェクト担当)	井上貴文

### ◆パネルディスカッション◆

モデレータ	日本大学 経済学部 教授	加藤一誠
パネリスト	Peach Aviation 株式会社 総合企画部 部長	遠藤 哲
	株式会社フジドリームエアラインズ 代表取締役副会長	内山拓郎
	鶴雅グループ アジア・東日本エリアマネージャー 取締役	大西 希
	東京大学 航空イノベーション総括寄附講座 特任准教授	飯塚秋成
	茨城県 観光物産課 (現国際課 課長) 課長	清瀬一浩
	国土交通政策研究所 所長	後藤靖子

※閉会后、意見交換会を日本大学 7 号館 14 階レセプションルームにて行います。

事前登録制となります。参加を希望される方は、シンポジウムの申込時にご連絡願います。

(参加費 別途 2000 円)